

令和3年度尾張旭市の行政評価について（取組のまとめ）

- 「行政評価」とは、まちづくりの目標達成に向けた活動を客観的に評価し、その結果を次の企画や実施に反映させるとともに、財源や職員、施設などの行政資源を有効に活用していく「マネジメント」の仕組みです。
- 厳しい財政状況の中、人口減少や少子高齢化などの社会変化に速やかに対応したまちづくりを、進めていく必要があります。
- 本市では、市民ニーズを的確に把握し、限られた行政資源を有効に活用するといった市民起点の行財政運営を行うため、この「行政評価」に取り組んでいます。

1 基本的な考え方

(1) 取組の概要

ア 施策・基本事業評価（P. 2～7）

施策及び基本事業を評価・点検し、総合計画の目標の達成状況について公表します。

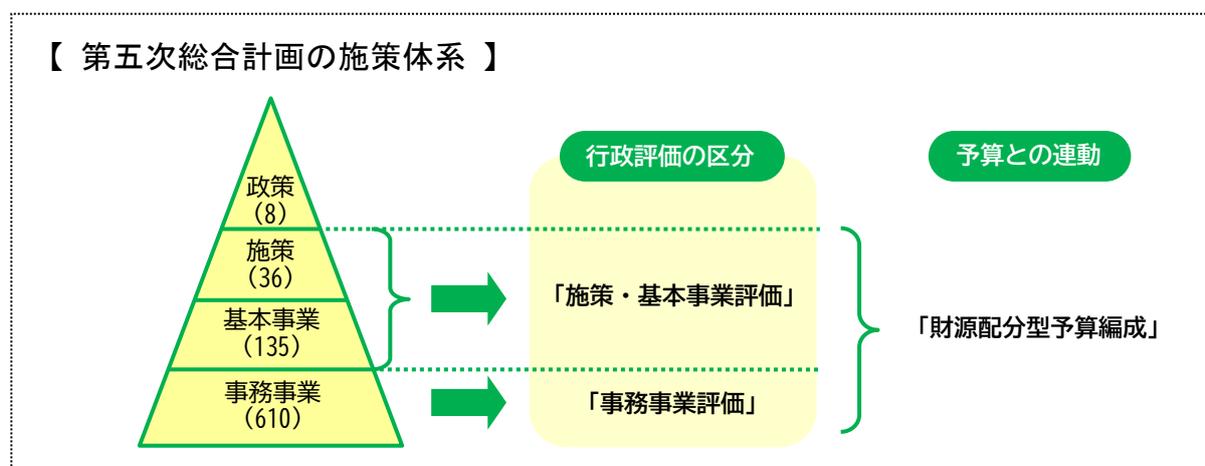
イ 事務事業評価（P. 8～9）

毎年度全ての事務事業を評価・点検し、その結果を公表します。

ウ 財源配分型予算編成（P. 10）

行政評価と予算編成との連動を図り、財源配分型予算編成を行います。

総合計画の進行管理、財政管理、事務管理及び人事管理の視点から、ア～ウを一体的に進めています。



(2) 評価の方法

内部評価により、職員の政策形成能力向上を図ります。

2 施策・基本事業評価

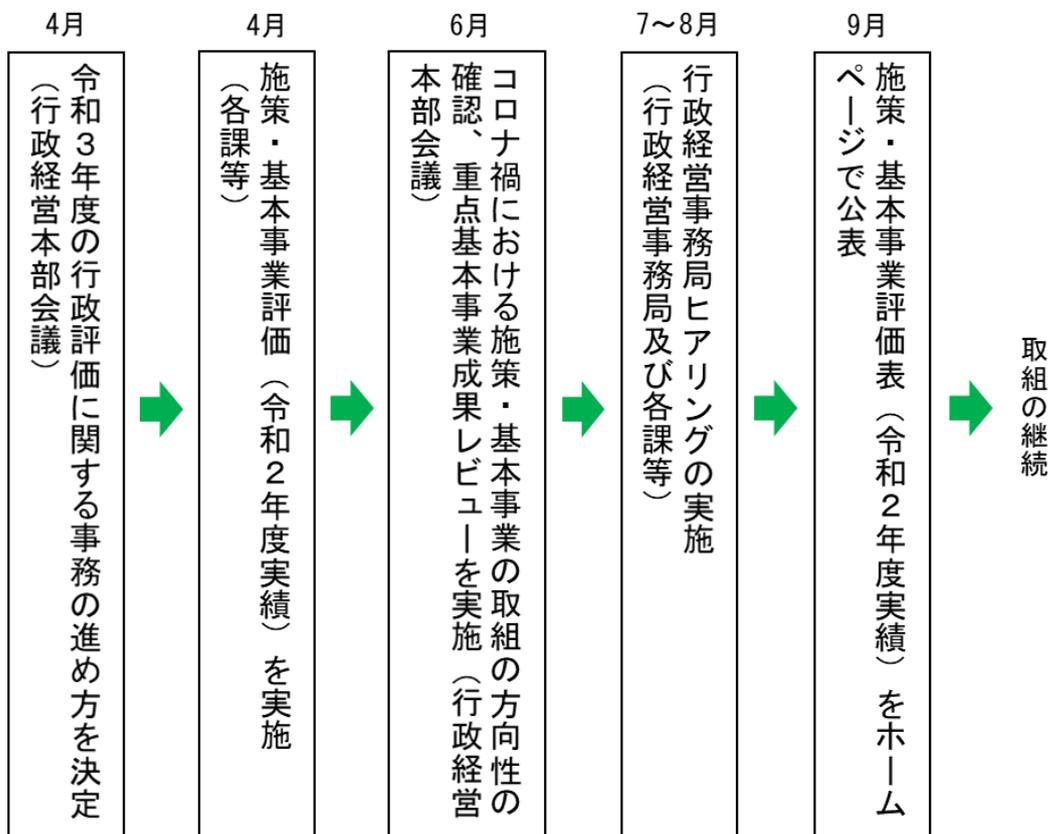
(1) 取組の概要

- ア 本市の10年間のまちづくりの指針として策定した第五次総合計画では、その目標を実現するための手段として「施策」と「基本事業」を位置付けています。
- イ その現状については、市民アンケートの結果などに基づき分野別に分析し、評価・点検をしています。
- ウ 評価結果については、市ホームページ等で公表しています。

(2) 庁内推進体制

<p>施策の主管課・関係課 (それぞれの施策ごとに、横断的に「主管課」「関係課」を設定)</p> <p>・施策・基本事業評価表を作成し、事務局に提出します。 (施策の主管課・関係課が議論)</p>	<p>行政経営事務局 (企画課・財政課・人事課)</p> <p>・次の4つの視点から、ヒアリング等により、評価・点検を実施します。</p> <p>①総合計画進行管理の視点 ②財政管理の視点 ③事務管理の視点 ④人事管理の視点</p> <p>・各課等へ情報提供、協力して進行管理を行います。</p>	<p>行政経営本部 (三役・部長級)</p> <p>・施策・基本事業評価の結果に基づき、必要な意思決定を行います。</p>
---	---	--

(3) 令和3年度の事務経緯



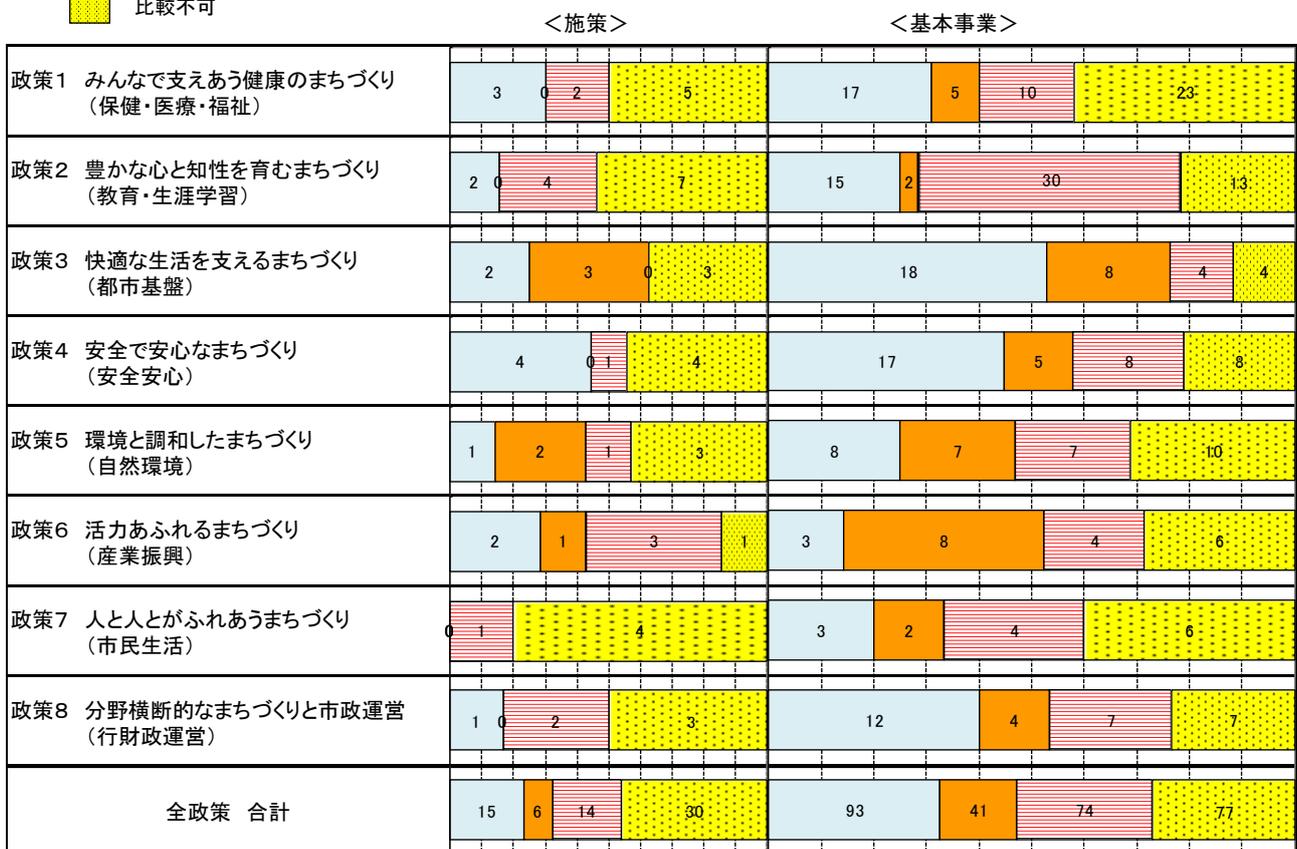
(4) 政策別の成果状況

施策・基本事業の成果指標の状況を、平成30年度基準値に対する令和2年度実績値の状況で分析した結果、施策では約23%（15指標）、基本事業では約33%（93指標）の成果指標において、数値が向上しています。

施策・基本事業ともに、低下した指標のうちの58%は、新型コロナウイルス感染症が理由となっています。

令和2年度は、「市民まちづくりアンケート」未実施のため、数値の取得できなかった指標を「比較不可」で表示しています。

なお、施策の成果指標の状況については、次ページ以降に記載しています。



※ グラフの中の数字は、指標の数を表しています。

(5) 施策の成果指標の状況

《表の見方》

番号	施策名称	成果指標名	単位	①	②	③	対基準値	④
				基準値 (H30)	目標値 (R5)	実績値 (R2)		H30とR2 の比較
1-1	健康づくりの推進	健康だと思う市民の割合	%	88.2	92	—	比較不可	—
		平均自立期間（男性）	歳	81.2	81.7	81.8	向上	
		平均自立期間（女性）	歳	84.1	84.6	84.9	向上	

項目	内容
① 基準値 (H30)	第五次総合計画の目標値を設定する上で基準とした数値です。 ※ 原則、平成30年度の数値ですが、異なる年度で取得した指標もあります。
② 目標値 (R5)	令和5年度の目標値です。指標の種類により次の2つのパターンがあります。 ① 数値で示すパターン：市民アンケート又は業務データから数値を取得するもの ② 数値の推移を見るパターン：「－」で表示
③ 実績値 (R2)	「市民アンケート」や「業務データ」から取得した直近の数値です。 ※ 原則、令和2年度の数値ですが、異なる年度で取得した指標もあります。 ※ 令和2年度は市民アンケート未実施のため、業務データから取得した数値のみです。
④ H30とR2 の比較	「基準値 (H30)」と「実績値 (R2)」の比較による数値の変化を、あさびーの表情 (3区分) で表しています。 (「対基準値」が「比較不可」の場合は「－」としています。)

	・「目標値 (R5)」を達成 ・「対基準値」が「向上」
	・「対基準値」が「横ばい」
	・「対基準値」が「低下」

政策1 みんなで支えあう健康のまちづくり

番号	施策名称	成果指標名	単位	基準値 (H30)	目標値 (R5)	実績値 (R2)	対基準値	H30とR2 の比較
1-1	健康づくりの推進	健康だと思ふ市民の割合	%	88.2	92	－	比較不可	－
		平均自立期間 (男性)	歳	81.2	81.7	81.8	向上	
		平均自立期間 (女性)	歳	84.1	84.6	84.9	向上	
1-2	地域医療・福祉医療の推進	地域の医療機関を安心して利用している市民の割合	%	91.9	95	－	比較不可	－
1-3	子育て支援の推進	子育てしやすいまちだと思ふ中学生以下の保護者の割合	%	84.1	93	－	比較不可	－
1-4	高齢者福祉の推進	自立高齢者の割合	%	85.2	82.9	80.2	低下	
		生きがいを持っている高齢者の割合	%	70.8	85	－	比較不可	－
1-5	障がい者福祉の推進	在宅で生活している障がい者の割合	%	99.1	99	99.3	向上	
1-6	地域福祉の推進	住民同士で相互扶助ができて市民の割合	%	43	47	－	比較不可	－
		社会福祉協議会の会員数	人	2,746	2,800	2,594	低下	

政策2 豊かな心と知性を育むまちづくり

番号	施策名称	成果指標名	単位	基準値 (H30)	目標値 (R5)	実績値 (R2)	対基準値	H30とR2 の比較
2-1	豊かな心・健やかな体を育む教育の推進	学校生活を楽しく送っている児童の割合	%	95	98	93.6	低下	
		学校生活を楽しく送っている生徒の割合	%	92.9	94	94.2	向上	
2-2	確かな学力を育む教育の推進	指導要録の評定で全教科の評定が2以上である児童の割合	%	91.3	94	89.4	低下	
		指導要録の評定で全教科の評定が3以上である生徒の割合	%	46.6	65	42.2	低下	
		学習意欲がある児童の割合	%	94.8	97	93.4	低下	
		学習意欲がある生徒の割合	%	85.3	90	88.9	向上	
2-3	総合的な教育連携の推進	学校・家庭・地域のコミュニケーションが図られていると感じる市民の割合	%	85.9	90	—	比較不可	—
2-4	生涯学習の振興	生涯学習に取り組んでいる市民の割合	%	43.3	48	—	比較不可	—
		生涯学習環境に対する総合的な満足度	%	67.8	67	—	比較不可	—
2-5	文化の継承と振興	尾張旭の文化財の認知の割合	%	21.2	25	—	比較不可	—
		芸術文化活動を鑑賞・参加している市民の割合	%	37.8	55	—	比較不可	—
2-6	スポーツの振興	スポーツ活動に親しむ市民の割合	%	70	75	—	比較不可	—
		スポーツ活動を週1回以上行う成人市民の割合	%	58.5	65	—	比較不可	—

政策3 快適な生活を支えるまちづくり

番号	施策名称	成果指標名	単位	基準値 (H30)	目標値 (R5)	実績値 (R2)	対基準値	H30とR2 の比較
3-1	質の高い住環境の整備	秩序とやすらぎを感じる街が形成されていると思う市民の割合	%	91.4	92	—	比較不可	—
3-2	快適に移動できる交通基盤の整備	市外への移動が円滑に行えると思う市民の割合	%	87.3	92	—	比較不可	—
		市内の移動が円滑に行えると思う市民の割合	%	83.2	90	—	比較不可	—
3-3	安全で安定した水の供給	安全な水道水が供給されている割合(日数ベース)	%	100	100	100	横ばい	
		水道水供給事故回数	回	0	0	0	横ばい	
3-4	衛生的で快適な下水道の整備	下水道普及率	%	76.6	83	82.4	向上	
		水洗化率	%	91.1	94	89.2	横ばい	
3-5	雨水対策・河川整備の推進	床上浸水家屋数	件	0	0	0	向上	

政策4 安全で安心なまちづくり

番号	施策名称	成果指標名	単位	基準値 (H30)	目標値 (R5)	実績値 (R2)	対基準値	H30とR2 の比較
4-1	防災・減災対策の 推進	市の災害対策・防災体制に安心感を持つ市民の割合	%	66.5	70	—	比較不可	—
		市民レベルでの防災・減災体制ができていると思う市民の割合	%	36.3	55	—	比較不可	—
4-2	消防・救急体制の 充実	人口1万人当たりの火災発生件数（出火率）	件	2.3	2	2.4	低下	
		心肺機能停止患者の生存率	%	8.1	—	10.3	向上	
4-3	交通安全対策の推 進	人口千人あたりの交通事故発生件数	件	30.8	26.2	23.4	向上	
		人口千人あたりの交通事故死傷者数	人	5	3.5	2.7	向上	
4-4	防犯対策の推進	人口千人あたりの犯罪認知件数	件	5.5	5.5	4.0	向上	
		治安がよく、安心して住めると思う市民の割合	%	81.2	82	—	比較不可	—
4-5	消費者・生活者の 安心の確保	この1年間に消費者トラブルに遭った市民の割合	%	2.2	1	—	比較不可	—

政策5 環境と調和したまちづくり

番号	施策名称	成果指標名	単位	基準値 (H30)	目標値 (R5)	実績値 (R2)	対基準値	H30とR2 の比較
5-1	資源循環型社会の 形成	ごみ総排出量	t	24,805	23,500	25,568	低下	
5-2	地球にやさしい生 活の推進	地球環境にやさしい取り組みの平均実践項目数(全20項目中)	項目	7.9	9	—	比較不可	—
5-3	身近な緑・水辺環 境の保全と創出	緑地面積	ha	517	519	518	横ばい	
		緑・水辺に親しめる場所があると思う市民の割合	%	84.9	90	—	比較不可	—
5-4	生活衛生環境の向 上	快適な生活衛生環境だと思ふ市民の割合	%	68.2	72	—	比較不可	—
		生活衛生環境に関する事故件数	件	0	0	0	向上	
		生活衛生環境に関する苦情の解決率	%	98.8	98	98.3	横ばい	

政策6 活力あふれるまちづくり

番号	施策名称	成果指標名	単位	基準値 (H30)	目標値 (R5)	実績値 (R2)	対基準値	H30とR2 の比較
6-1	商業の振興	市内商店の年間商品販売額	億円	1,484	—	1,484	横ばい	
		市内商業が活性化していると思う市民の割合	%	26.6	35	—	比較不可	—
6-2	工業の振興	市内工業事業所の製造品出荷額	億円	1,305	—	1,216	向上	
6-3	農業の振興	農地の利用集積面積	ha	50.4	66.0	52.0	向上	
		地域特産品の出荷量	t	11.2	20	10.2	低下	
6-4	勤労者支援・就労支援の充実	勤労者の市福利厚生サービス利用・自己研さん研修参加者数	人	941	1,000	469	低下	
		地域職業相談室（ふるさとハローワーク）を利用して就職した相談者（失業者）の割合	%	6.9	—	4.2	低下	—

※ 成果指標「地域職業相談室（ふるさとハローワーク）を利用して就職した相談者（失業者）の割合」は、景気や社会情勢などに影響されやすく、また、個人の考え方によるところも大きいため、「H30とR2の比較」はしていません。

政策7 人と人がふれあうまちづくり

番号	施策名称	成果指標名	単位	基準値 (H30)	目標値 (R5)	実績値 (R2)	対基準値	H30とR2 の比較
7-1	市民によるまちづくり活動の推進と支援	地域活動に参加している市民の割合	%	24.1	28	—	比較不可	—
		ボランティア活動・市民活動を行っている市民の割合	%	11.9	19	—	比較不可	—
7-2	にぎわいの創出とまちへの愛着意識の向上	わがまちに「愛着」を感じる市民の割合	%	78.3	80	—	比較不可	—
		観光入込客数	人	1,142,241	1,250,000	1,122,836	低下	
7-3	男女共同参画社会の形成	社会全体として男女の地位は平等になっていると思う市民の割合	%	34.8	40	—	比較不可	—

政策8 分野横断的なまちづくりと市政運営

番号	施策名称	成果指標名	単位	基準値 (H30)	目標値 (R5)	実績値 (R2)	対基準値	H30とR2 の比較
8-1	開かれた市政の推進	情報の提供・公開が充実していると感じる市民の割合	%	76.5	80	—	比較不可	—
		市政への参画、広聴の機会が充実していると感じる市民の割合	%	80.7	80	—	比較不可	—
8-2	行財政運営の推進	効率的・計画的なまちづくりが進められていると思う市職員の割合	%	79.2	92	85.4	向上	
		施策目標の達成率	%	33	80	18.5	低下	
8-3	組織・人事マネジメントの充実	市職員の仕事ぶりに満足している市民の割合	%	84.7	90	—	比較不可	—
		組織・職員が市民の抱える問題・行政課題に関し、迅速かつ適切に対応できていると思う職員の割合	%	55.3	70	53.9	低下	

3 事務事業評価

(1) 取組の概要

ア 市が行う仕事の最も基礎的な単位である「事務事業」について、「そのやり方は適切なのか」、「成果が上がっているのか」、「本当に必要な仕事なのか」、「もっと低いコストで仕事ができないか」などの視点から評価・点検を行っています。

イ 評価結果については、市ホームページ等で公表しています。

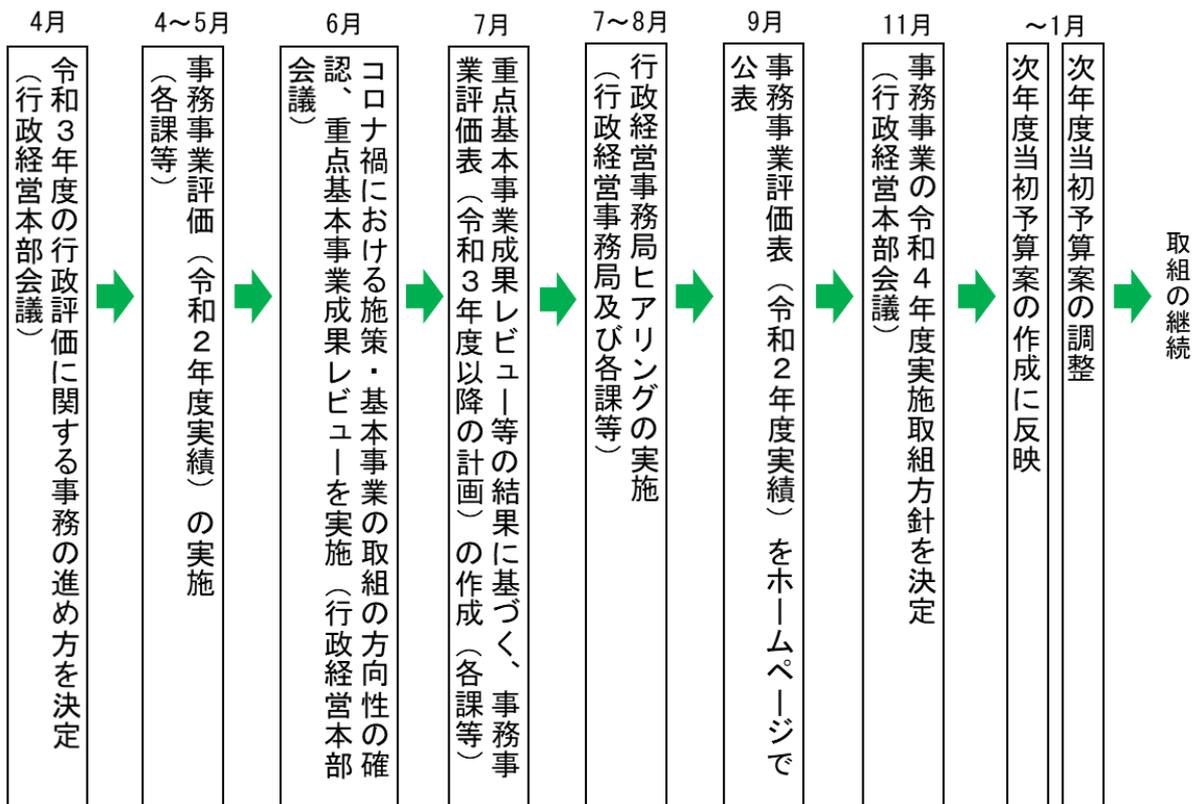
R3 評価実施事業（市の全ての事務事業）＝610事業

（※ 継続事業：590事業、R2新規事業：20事業）

(2) 庁内推進体制

<p>各課等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務事業評価表を作成し、事務局に提出します。 	<p>行政経営事務局 (企画課・財政課・人事課)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次の4つの視点から、ヒアリング等により、評価・点検を実施します。 <ol style="list-style-type: none"> ①総合計画進行管理の視点 ②財政管理の視点 ③事務管理の視点 ④人事管理の視点 ・各課等へ情報提供、協力して進行管理を行います。 	<p>行政経営本部 (三役・部長級)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務事業評価の結果をもとに、実施計画、予算編成方針、事務事業の方向性など、必要な意思決定を行います。
---	---	---

(3) 令和3年度の事務経緯



(4) 令和2年度実施取組方針の評価結果

事務事業の種別				評価結果			
方向性	説明	事業数 (割合)	うち実施取組 方針のある 事業数	実施 済み	一部 実施 済み	未実施	その他
見直し	・ 事務事業のやり方を見直すもの ・ 予算を見直すもの	100 (16.4%)	97	73	19	1	4
新規	・ 令和2年度から実施するもの	20 (3.3%)	3	3	0	0	0
維持	・ これまでとほぼ同じやり方・予 算規模で進めていくもの	469 (76.9%)	55	39	13	0	3
合計		610	176	135	33	1	7

(5) 進行管理の方法

ア 担当者

各事務事業の進行管理を行います。

イ 所属長

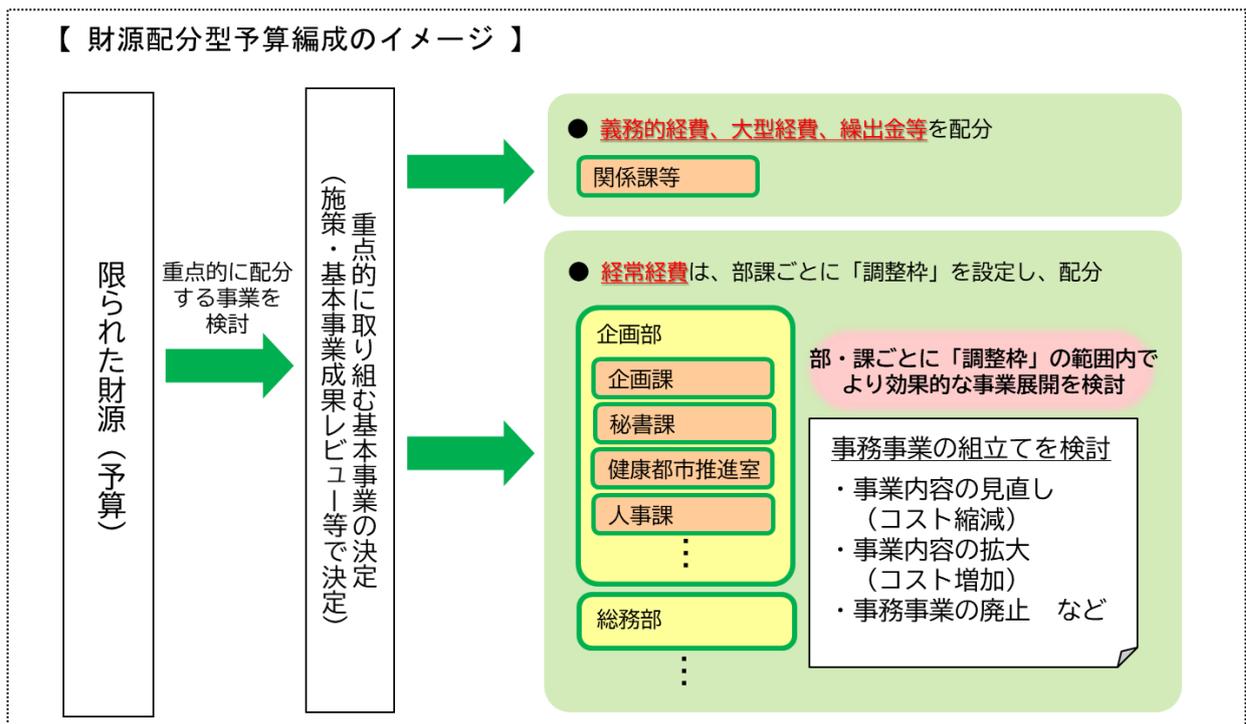
進行管理状況を検証し、担当課内の事務事業の管理監督を行います。

4 財源配分型予算編成（行政評価と予算編成との連動）

(1) 取組の考え方

「財源配分型予算編成」とは、限られた財源を義務的経費、大型経費、繰出金等に区分して各々に配分するとともに、經常経費については、部・課別の調整枠を設けることで、各部・課が財源と責任を持ち、より成果志向の予算配分を行うものです。

本市では、より効果的・効率的な行財政運営を行うため、行政評価の結果を活用した「財源配分型予算編成」を実施しています。



(2) 令和3年度の事務経緯

